



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-161

(2025. 2. 28)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 刀禰 和之

研究員 森川 友理

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-33）

－ 貸出金利回りの改善策 －

ポイント

- 2024年3月以降、「金利のある世界」が本格化しており2025年1月には日本銀行の政策金利が17年振りに0.5%にまで引き上げられた。
- 研修受講金庫の間では、既存先の金利引上げに加え、新規開拓の強化や消費者ローンの推進に取り組む動きが強まっている。
- 取組時の検討課題は、①金利（収益）意識の徹底、②評価方法の再設定、③職員研修の充実などとなる。
- 研修受講金庫の取組事例をみると、取引先との金利交渉の進捗管理を本部が周知徹底する信用金庫があった。

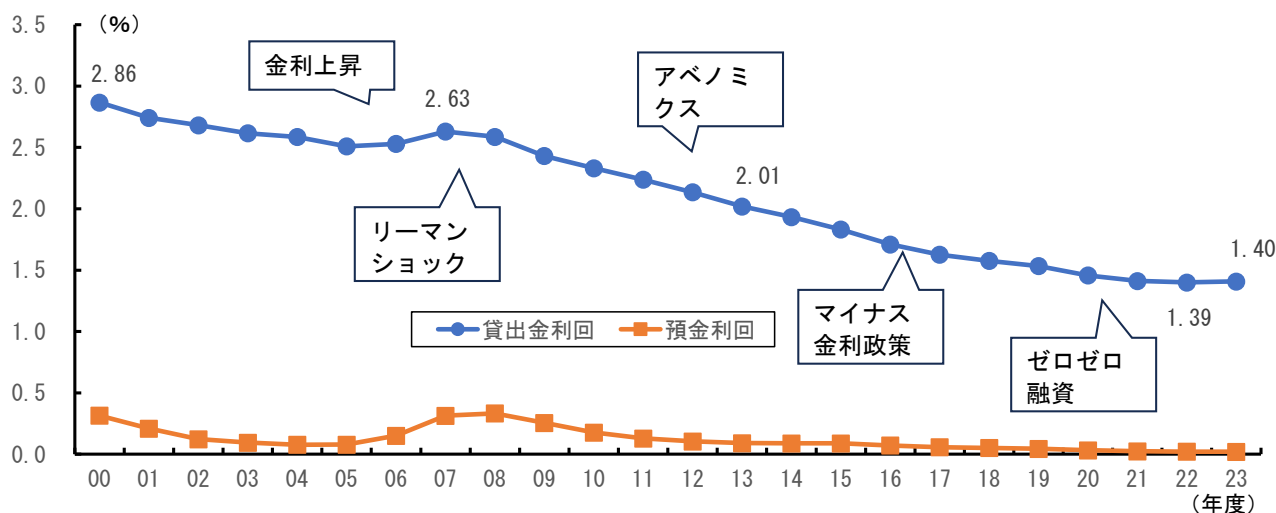
（注1）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2024年度）」の意見交換および個別信用金庫へのヒアリング等で得た情報をもとに作成している。

（注2）本稿は、ニュース&トピックス（2023-71）「信用金庫の新しいビジネスモデル策定（5）－ 貸出金利回り改善への取組動向 －」のアップデート版となる。

1. 貸出金利回りの推移

2025年1月、日本銀行は政策金利を引き上げ17年振りの0.5%とした。昨年のマイナス金利の解除以降、信用金庫の間で貸出金利の引上げが進んでおり、今後は更なる金利引上げが加速しよう（図表1）。しかしながら研修受講金庫の地域特性などによって貸出金利の適正化に苦慮する声もあり、「金利のある世界」の到来が信用金庫の決算に与える影響は個別の事情によって異なると想像される。

（図表1）貸出金利回りの推移



（備考）図表1・2ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 利回り改善への取組み

研修受講金庫の取組みをみると、既存融資先の金利引上げが活発化しており、そのための研修や説明会の実施にも熱心であった。ただし預金利回りの上昇に比べて、貸出金利回りの追随は遅れ気味のため、預貸金利鞘の縮小を懸念する声は根強かった。また、こうした課題を解決するべく新規開拓の強化や消費者ローンの推進に舵を切る動きも出ている。

3. 取組時の留意点

取組時の検討課題は、①金利（収益）意識の徹底、②評価方法の再設定、③職員研修の充実などとなる。「金利のある世界」では量（残高）と質（利回り）のバランスを意識した活動がこれまで以上に求められるので、金利意識を庫内周知して臨む必要がある。また営業店評価制度なども現状と整合的なものに再設定することが望まれる。

4. 研修受講金庫のコメント

当研究所が主催する「経営戦略プランニング研修」などの意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表2のとおりである¹。

（図表2）研修受講金庫のコメント（貸出金利の引上げについて）

- 当金庫は「〇月に基準金利を引き上げる」とHPなどで事前に公表する。金庫としての方針をしっかりと示しているので、現場職員は動きやすいと思う。
- 当金庫はもともと金利競争で安売りしない「預金連動型の融資」を謳っている。そのため、顧客も金利引上げを受け入れやすい土壌にある。
- 当金庫は3年程前から金利の適正化に取り組んでいる。現在は「0.01%でも金利を引き上げよう」との指示を徹底しており、金利上昇前から少しずつ貸出金利回りも改善していた。
- 当金庫は貸出金で量を追うのは困難とみており、適正金利の徴求を重視している。そのため相対的に貸出金利回りが高く、また金利交渉を行う風土もある。
- 当金庫の渉外担当向けの説明会では、『変動金利の先には交渉せず「こういう契約なので金利が上がります」と言うべき』と指示している。また重要先・難交渉先には支店長が率先して交渉にあたるよう指示した。
- 地元の地銀が先行して貸出金利を引き上げたので、当金庫も利上げ提案を行いやすい。もちろん交渉によって全ての金利引上げは困難だが、顧客の理解を得やすい。
- 1回目の金利引上げは顧客も納得してくれ追随率も高かったが、短いスパンに2回・3回と金利見直しをお願いし続ける自信はない。今後、貸出金利の追随率は低下していこう。

（備考）過去レポートの再掲あり

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 信用金庫のコメント等は研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある（個別信用金庫名や詳細資料の提供依頼にはお応えしておりません）。